

日本作業科学研究会ニュースー作ら， さくらー第2号



発行年月日 2007年7月10日

発行者 日本作業科学研究会

ウェブサイト <http://www.kiui.ac.jp/~stone/index.html>

編集責任者 吉川ひろみ

第11回作業科学セミナーのお知らせ

2007年12月1日(土)，2日(日)，倉敷芸文館(岡山県倉敷市)にて開催されます。第3回となる佐藤剛記念講演には，宮前珠子(聖隷クリストファー大学教授・日本作業科学研究会会長)氏を迎え，招待講演としてアリソン・ウィックス(Alison Wicks，作業科学国際協会会長)氏にご講演をいただきます。テーマは，「“作業”を世の中へー作業を捉え，深め，生かし，見えるものへー」です。テーマに沿った演題を募集します。締切りは10月15日です。

参加希望者は，氏名，所属，E-mail アドレス，参加日(1日あるいは全日)をお知らせください。定員150名です。参加費は，全日参加で会員5000円，非会員7000円，学生2000円です。1日参加で，会員3000円，非会員4000円，学生1000円です。

作業科学セミナー 演題申込・問合せ先
osjpn@yahoo.co.jp

日本作業科学研究会理事会報告

日時：2007年6月23日(土)9～11時

場所：鹿児島サンロイヤルホテル

出席者：宮前，港，ボンジェ，村井，坂上

【議題】

1. 機関誌について(村井，西野)

創刊号準備中。会員には一部無料配布。非会員には一部800円で販売する。会員が新たに購入する場合は一部500円で販売。支払い方法は郵便局振込みで送料別とする。今後は電子ジャーナル化も検討する。

2. ホームページについて(港，浅羽)

容量，内容，運営方針について12月総会までに担当理事が提案する。

3. 作業科学ニュース(吉川) 掲載記事募集。

4. 第11回作業科学セミナー(港)準備中。

5. 第12回作業科学セミナー(西野)

2008年11月末開催予定。西野，石井，西方，他社会医学技術学院卒業生で実行委員会構成を検討。

6. その他

1) 総会は12月1日(土)昼休み1時間程度開催予定。

2) PT・OT連絡協議会へ作業科学セミナー助成の申請を行う。

【報告】

1. 会員状況

登録者は103名(2007年6月20日現在)

2. 収支報告(2007年6月20日現在)

収入合計 301,875円，支出合計 14,857円，収支差額 287,018円。

3. European Network of Occupational Therapy in Higher Education(ENOTHE)のプロジェクト参加について

ENOTHEが助成金を申請するMUNDUSプロジェクトへの参加の誘いがあり，事務局を窓口として参加登録を行った。このプログラムは，欧州と欧州以外の地域の高等教育機関の国際的な結びつきを強化する目的で2004年から実施されており，欧州の大学や学生，研究者の他，EU域外の大学や団体が対象となっている。今回参加するのは，「グローバルな視点でのヨーロッパ作業療法高等教育ネットワーク」

で，作業療法教育，様々な国でのライフスタイル研究，作業科学の発展・促進，革新的な教授法における成果を目的としている。期間は2007年11月1日～2008年9月31日。

機関誌「日本作業科学研究」投稿案内

「日本作業科学研究」は，本研究会機関誌として今年度創刊予定です。総説，研究論文，短報，書評などへの投稿をお待ちしています。投稿原稿は研究会機関誌事務局（村井真由美，E-mail: mmuraim@mx2.aitoyui.com）までお寄せください。投稿規定及び執筆要領は，作業科学研究会のホームページをご覧ください。

<http://www.kiui.ac.jp/~stone/page7.html>

第4回アジア太平洋作業療法学会報告

熱気あふれる香港，若いエネルギーに満ちた学会でした。テーマは「革新的実践を通して文化的多様性を包み込もう（Embracing Cultural Diversity Through Innovative Practice）」で，初日の講演がフローレンス・クラーク（Florence Clark，南カリフォルニア大学）氏の「伝統的な作業療法と世界の健康への努力に対して作業科学が何を提供してきているか」でした。さらに，二日目に予定されていた講師が参加できなくなり，クラーク先生が「健やか高齢者研究（Well Elderly Study）とその後の取組み」についてお話されました。講演の中で，作業科学の誕生当初は科学を基礎と応用に分類して考えていたが，現在はすべての科学は人々の生活や社会に適用されるべき方向性をもつという意味で translational science と表現されると述べました。従って作業科学も，すでに過去10年以上の歴史が示すように，そしてこれからも，人々の生活や社会によい影響を与える translational science なのです。三日目のエリザベス・タウンゼント（Elizabeth Townsend，ダルハウジー大学，カナダ作業療法士協会著「作業療法の視点」）

編集者）氏の講演でも作業療法士は translational profession だと表現していました。つまり，求められているのは実生活に役立つ科学や職業であり，知識を科学者や専門家の内部だけに留めておくのではなく，世界の必要な場で生かせるように，専門知識を翻訳していかなければならないということだと思います。

シンガポールのリム・ホア・ベン（Lim Hua Beng，シンガポール南洋工科大学）氏の Tsuyoshi Sato 講演「夢と志：若き実践家の目を通した作業療法未来像 Of Dreams and Aspirations：The Future of Occupational Therapy through the Eyes of Young Practitioners」は感動的でした。シンガポールの OT は400名，大半が20代で40歳以上はたったの3.7%だそうです。若い OT たちが「OT はもっともっといい仕事ができると思う」と，現状の病院や施設のシステムでは難しいと述べながらも，未来への夢を語る様子が紹介されました。講演から，「今がチャンス，病院の枠を越えて，政治や社会に関心をもち，OT の活躍の場を広げよう」というメッセージが熱く伝わりました。教員に対しては，文化人類学，社会学，作業科学を教えようと述べていました。

学会参加者は600名，日本人参加者は60名で国別比較では三番目に多い参加者数でした。4年後の第5回学会はタイです。

第2回作業科学シンクタンク報告

2007年4月1～3日，南カリフォルニア大学クラーク氏の尽力により，第19回作業科学シンポジウムに続いてカタリーナ島で開催されました。14カ国（台湾，米，加，英，豪，蘭，南アフリカ，ニュージーランド，スウェーデン，アイスランド，チリ，ブラジル，ノルウェー）から27名が参加し，日本からは宮前会長，浅羽理事，吉川が参加しました。前回からの懸案事項であった作業科学の新しい国際組織の

設立のための役員として，会長にアリソン・ウィックス（豪），役員に浅羽エリック（日・スウェーデン），エルナ・ブランチ（チリ・米）ハンス・ヨンセン（スウェーデン），デビー・ラドマン（加）が選出されました（敬称略）。研究推進，教育発展，社会貢献，権利擁護など，今後の活動についてディスカッションしました。

次の団体が国際組織に参加する予定です。

- the Australasian Society of Occupational Scientists（豪・ニュージーランド），
- the Canadian Society of Occupational Scientists（加）
- the European Network of Occupational Therapy in Higher Education, the Health Through Occupation Research Group（欧）
- the Japanese Society for the Study of Occupation（本研究会）
- the Journal of Occupational Science（学術誌）
- Occupation UK & Ireland（英）
- the Society for the Study of Occupation: USA（米）
- the Spirit of Survivors: Occupational Therapy without Borders（国際的活動家 Frank Kronenbergの関連団体）
- World Federation of Occupational Therapists' International Advisory Group: Occupational Science（WFOT）

第19回作業科学シンポジウム報告

2007年3月29～30日，南カリフォルニア大学で「健康とウェルネス：学際的・国際的連携（Health and Wellness: Interdisciplinary and Global Connections）」をテーマに開催されました。最初の講演者 Carol Ryff（Univ of Wisconsin）氏は，心理的ウェルビーイングに影響を与える因子を研究しており，人生の目的や学歴などを指摘しました。心理士でもある Shane J. Lopez（Univ of Kansas）氏は，希望理論と測定法について講演し，明確な目標と到達手段と手段を可能にする力源があれば希望がもてると話しました。作業科学国際組織準備役員にも選出された Hans Jonsson（Karolinska Institutet）氏は伝統的な作業分類である仕事，遊び，ADLを再考する試みについて話しました。Rachel Thibeault（Univ of Ottawa）氏は，アフリカにおける障害者の社会参加活動を支援した経験を話し，作業参加の重要性を力説しました。南カリフォルニア大学では，健やか高齢者研究（Well Elderly Study）の追試として，ライフスタイル再構築（Lifestyle Redesign）プログラムの効果を4ヵ所6ヵ月間で検証する研究，脊髄損傷者の褥瘡

予防におけるライフスタイル再構築プログラムの有効性の研究が行われているという報告がありました。作業科学シンクタンク参加者から，チリの肥満予防プログラム，台湾の高齢者施設のサービス向上に作業科学を生かした実践が報告されました。

←第2回作業科学シンクタンク参加者
（前列左から二人目がウィックス氏）



第2回 日本 AAD 講習会のお知らせ

AAD (Assessment of Awareness of Disability) は、クライアント中心かつトップダウン方式のアプローチを基盤に開発された革新的な評価法で、AMPS と密接に関連し、半構造化された面接に基づいて実施されます。クライアントが自分の障害をどの様に認識しているかを見極め、作業療法士が治療介入計画の立案に活用することを目的としています。

日時：2007年9月21日(金)～24日(祝)
会場：財団法人 浅羽医学研究所附属岡南病院
(岡山県)

共催：財団法人 浅羽医学研究所

スウェーデン王立 カロリンスカ研究所
講師：Anders Kottorp, Ph.D., Reg. OT

(カロリンスカ研究所 OT 学科長代理)

参加費：70,000 円 (7月17日まで)

80,000 円 (7月18日以降)

(通訳, 教材, 宿泊, 食事,
岡山駅-ホテル-講習会場間送迎)

※ コース費・換算費は今回は免除

定員：20名(先着順)

受講資格：AMPS 講習会の受講歴のある方
(換算コード取得していなくても可)

申込・問合せ先：

財団法人浅羽医学研究所附属岡南病院内

AAD 講習会事務局

TEL:0863-32-1122 FAX:0863-32-1613

URL : <http://www.amrf.or.jp/aad/>

作業とナラティブ研究方法論の研修会のお知らせ

ナラティブ研究法は作業療法や作業科学の研究の中で注目される質的研究法の一つです。ナラティブ研究の特徴は、当事者の実際の語りを通して、作業的経験と作業的存在としての当事者の視座を調べるという点です。

日時：2007年9月29日(土)

10時～16時30分

会場：藍野大学 (<http://www.aino.ac.jp>)

共催：藍野大学

財団法人浅羽医学研究所

スウェーデン王立 カロリンスカ研究所

講師：Staffan Josephsson, Ph.D., Reg. OT

(カロリンスカ研究所) 通訳付

参加費：無料

申込・問合せ先：

藍野大学作業療法科ボンジェ研究室

Tel: 072-627-1834

Email: p-bontje@ot-u.aino.ac.jp

URL : <http://www.amrf.or.jp/>

作業科学関連情報の紹介

- 日本作業科学研究会
<<http://www.kiui.ac.jp/~stone/index.html>>
今年度中にリニューアル予定です。
- 豪州・ニュージーランド作業科学センター
<<http://www.anzocsci.org/>>
アリソン・ウィックスさんが編集しています。
作業科学シンクタンクの報告書などがあります。
- Journal of Occupational Science
<<http://www.jos.edu.au/>>
唯一の作業科学専門学術誌です。

事務局からのお知らせ

事務局へのお問合せは下記へ

Email:jss-jim2006@hotmail.co.jp

編集者からのお知らせ

記事がある会員は、吉川ひろみ yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp まで、お知らせください。

12月1, 2日, 作業科学セミナーでお会いできることを楽しみにしています。